

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	670700624
法人名	株式会社 コンパス
事業所名	グループホーム「コスモス」
訪問調査日	平成 20 年 2 月 8 日
評価確定日	平成 20 年 4 月 1 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月26日

【評価実施概要】

事業所番号	670700624
法人名	株式会社 コンパス
事業所名	グループホーム「コスモス」
所在地 (電話番号)	山形県鶴岡市茅原西茅原112-6 (電 話) 0235-23-5858

評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成20年2月8日	評価確定日	平成20年4月1日

【情報提供票より】(平成19年12月13日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	18 人	
職員数	18 人	常勤 15 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 人	

(2)建物概要

建物形態	併設／○単独	新築／改築
建物構造	木造平屋建て 造り	
	階建ての 階 ～ 階部分	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食 円 昼食 円	夕食 円 おやつ 円	
	または1日当たり 1,000 円		

(4)利用者の概要(12月13日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名
要介護3	6 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 81.5 歳	最低 66 歳	最高 93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	内科 川上医院 歯科 谷家歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「利用者と家族の絆」をいつまでも大切にしていきたいと考えて始めた「里帰り支援」から、気に入った利用者同士がそれぞれ自分の家に利用者を連れて行くという新たな交流や出会いが生まれてきています。また、利用者全員に綿の下着で日中は過ごしてもらう「心地よさ」への取り組み、手洗いや口腔ケアを入念に行う感染症予防の取り組みにも力を入れています。今後、より一層のサービス向上のためにも、自己評価及び外部評価を実施する意義を踏まえながら、評価を活かした具体的な改善に向けた積極的・主体的な取り組みを期待したいホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「夜勤ができる職員の確保」を除いた前回評価での改善課題「ホーム便りの配布先を利用者家族だけでなく地域にも広げる取り組み」「介護計画見直しの際も家族に相談しながら計画を作成する取り組み」「運営規程にある〈採用1ヶ月以内の採用時研修〉を行う取り組み」についての具体的な改善は見られなかった。
重点項目②	① 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	会議で話し合いを行って全職員で評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に一度運営推進会議が行われており、ホームの利用状況やサービス評価の内容の報告と話し合いが行われている。また、会議の中で出された意見を議事録にまとめ、全体会議でも話し合っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理については毎月送付されており、個々に合わせた報告が行われている。また、職員の異動はその都度、お便りで家族に報告している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会加入やボランティアの受け入れは行われているが、地域の行事や活動に参加するまでに至っていない。また、前回評価での改善課題でもあった「ホーム便りの内容を検討・考慮しながら、定期的な配布を地域へも行い、ホームの運営理念が地域、近隣の中でも、より共有される取り組みを進めてみる」とについては、「個人情報が入る」という理由から行われていない。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	コスモス理念「いきいき のびのび ゆうゆうと 夢をもって暮らせる施設」はあるが、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていく地域密着型サービスとしての理念とはなっていない。	○	グループホームがもつ地域密着型サービスとしての特徴や役割等を職員全員で考え、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていく地域密着型サービスとしての理念としていく取り組みも期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホール入口や事務所に運営理念を掲げ、日々のケアサービスの中で実践できるように意識して取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会加入やボランティアの受け入れは行われているが、地域の行事や活動に参加するまでに至っていない。また、前回評価での改善課題でもあった「ホーム便りの内容を検討・考慮しながら、定期的な配布を地域へも行い、ホームの運営理念が地域、近隣の中でも、より共有される取り組みを進めてみる」とについては、「個人情報が入る」という理由から行われていない。	○	地域の中で共に暮らす一員として地域活動や行事等にホームの方から積極的に向かい合ってみる取り組み、地域の人々により幅広い交流が持てるための「きっかけづくり」や「基盤づくり」にホーム便りを活用してみる取り組みが期待される。また、「個人情報に配慮した形でのホーム便り作成」と「地域への広め方」などについての情報や事例を集めてみる取り組みも期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議で話し合いを行って全職員で評価に取り組んでいるが、「夜勤ができる職員の確保」を除いた前回評価での改善課題「ホーム便りの配布先を利用者家族だけでなく地域にも広げる取り組み」「介護計画見直しの際に家族に相談しながら計画を作成する取り組み」「運営規程にある〈採用1ヶ月以内の採用時研修〉を行う取り組み」についての具体的な改善は見られなかった。	○	より一層のサービス向上のためにも、自己評価及び外部評価を実施する意義を踏まえながら、評価を活かした具体的な改善に向けた積極的・主体的な取り組みが期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議が行われており、ホームの利用状況やサービス評価の内容の報告と話し合いが行われている。また、会議の中で出された意見を議事録にまとめ、全体会議でも話し合っている。		

山形県 グループホーム「コスモス」

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者にホームの実情や考え方を伝え、相談にのってもらったり、問題解決のための話し合いを行い、サービスの質の向上に共に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理については毎月送付されており、個々に合わせた報告が行われている。また、職員の異動はその都度、お便りで家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時、意見が言いやすいように声かけをしている。また、家族から出された意見や要望は、フロア会議や全体会議で話し合い、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように、異動は最小限にしているが、やむを得ず異動がある場合には、利用者への説明と職員同士の引き継ぎを十分行うことにより、ダメージを防ぐよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は計画を立てて実行されており、全体会議での研修報告等も行われているが、前回評価での改善課題でもあった「運営規程にある採用後1ヶ月以内の採用時研修の実施」については行われていない。	○	運営規程にある「採用後1ヶ月以内の採用時研修」についての取り組みを進めることが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、グループホーム同士の交換研修や地域の同業者と交流する機会をもつことにより、質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「昔からの知恵」を利用者に聞きながら、料理や季節の行事を行っている。また、「童謡の歌集作り」は利用者が中心になって行っており、利用者と職員が共に支えあう関係ができている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望は、本人から聞いたり、家族から本人の生活歴を聞いたりしている。また、日々の言葉や表情からも把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がよりよく暮らせるように、職員は利用者や家族に、日頃から意見や要望を聞くようにしている。また、フロア会議や全体会議で話し合い、職員の意見やアイデアも出し合いながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	前回評価での改善課題でもあった「介護計画見直しの際も家族と相談しながら介護計画を作成することができるよう、家族への具体的な働きかけの工夫をしてみる」とについては行われておらず、職員のみでの対応となっている。	○	介護計画見直しの際も、家族と相談しながら介護計画を作成することができるよう、家族への具体的な働きかけの工夫をしていく取り組みが期待される。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	利用者本人及び家族が希望するかかりつけ医に受診 することができ、外出を兼ねた通院時の対応は職員が 行っている。また、家族にも報告が行われており、適切 な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき だけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	サービス利用開始時に、重度化した場合や終末期の 対応についての話しを家族にしているが、「重度化した場 合における対応の指針」「看取りに関する指針」は、ま だ作成されていない。	○	「重度化した場合における対応の指針」「看取りに関する 指針」について整備し、利用者に関わる全員が、重度化 や終末期に向けた方針を共有できるようにしていく基盤作 りの取り組みも期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮して、排 泄ケアの際には「人前で大きな声を出さない」「目につ かない所で対応する」などの点に注意している。また、 個人の情報が漏れないように、記録の際や保管の際に 十分注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの基本となる一日の流れはあるが、利用者一人 ひとりの体調にも配慮しながら、朝寝坊や散歩などの希 望に沿えるように支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の持っている力を活かしながら、食事の下ごしらえ、テーブル拭き、食器洗いなども楽しみながら行っている。また、利用者の希望により外食に出かけることもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの体調を観察しながら、希望に応じた時間に入浴支援を行っている。また、入浴の嫌いな方でも、声かけや足浴などによる支援を行うことにより、無理強いせずに徐々に入浴できるように関わっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日が張り合いや楽しみのある生活になるように、「金魚のえさやり」「プランターの水やり」などを利用者にしてもらっている。また、食事作りや昔からの季節行事を楽しみながら、利用者の経験や知恵を発揮できる場面をつくっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりのその日の希望に応じて、散歩、買い物、花見、足湯などに出かけている。また、誕生月の利用者の希望で、ラーメン屋さんやお寿司屋さんで外食を楽しめる取り組みも行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	鍵をかけることの弊害は認識しているが、徘徊する利用者がいるという理由から、ホームの外からは中に入れるが、ホームの中から外に出る時には、事務室内のタッチパネルに触れないと玄関のドアは開かないようにしている。	○	利用者が外に出たくなる時間帯、場面、理由など、一人ひとりの外出の癖や傾向の把握と考察を行い、現在の状態が「徘徊のある利用者」と「徘徊のない利用者」のそれぞれにとって適切な状態にあるかの検討等も期待される。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火訓練や避難訓練が、消防署や地区の協力も得ながら行われており、昼夜の災害発生を想定した内容となっている。また、電池で使えるテレビやラジオ、懐中電灯などの災害発生時の備品も準備されている。		

山形県 グループホーム「コスモス」

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の残量がチェックシートに記入され、利用者一人ひとりの食事や水分の摂取量と摂取した栄養バランスが把握されている。また、毎日の献立は栄養士が作成している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭には観葉植物や季節の草花があり、また、ホールの天井からはやさしい自然光が差し込み、ホール内には心地よい音楽も流れ、ゆったりと居心地よく過ごせる共用空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、テレビ、ラジオ、鏡台、家族の写真など、利用者の使い慣れたものや好みのものが持ち込まれている。また、フローリングの床には畳を敷くこともでき、利用者一人ひとりの居心地のよさを考えた居室になっている。		